

「三保谷の学び」 ～ボランティアにおける自主性～

学習プログラム案作成までのプロセス

きっかけは



教師のねがい
自主性を育てたい。
NGOの人達は、
どんな気持ちで
ボランティアを
しているのだろう？

ボランティアは
特別なことではなく、
自発的に楽しんで
やるものだとことを
伝えたい。



NGOのおもい

こんなふうにつくりました

1 教師

成果

・思いを直接語って欲しい。
「楽しい」がキーワードになりそう！！

課題

・NGOの活動からボランティアを身近に感じられるか？
・実際には、どんなことをしているのか？
・ゲストに親しみを持ってくれるかな？

2 NGO

成果

・日本語教室や稲刈りの写真を使って紹介しよう！！
・仕事着（作業着、頭にタオル）姿で登場してみよう！！

課題

・参加者が自分自身をふり返るには？

3 教師

成果

・カルタをしたい。参加型の授業になるようにインタビュー形式でテンポよく進めてみよう！！

4 NGO

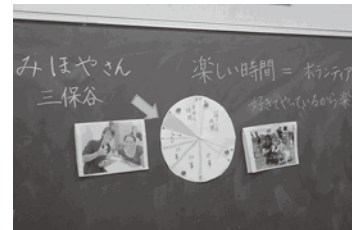
課題

・わずか30分で、しかも、子どもたちとほぼ初対面。
・限られた時間の中で、うまく思いを伝えられるのか？

5 教師

成果

・ねらいがブレないように考えを整理して台本にしておくことにしよう！！
・「楽しさ」に絞った推理クイズにしよう！
・カルタがより自主的になるように付箋で書き足すことにしよう！！



ボランティアのキーワード

インタビューの様子



自主的な活動になるための言葉をカルタに書き足す

全体をふり返って

成果

- カルタは、自らをふり返るとともに「思い」を実行しやすく、アイスブレイキングとしても効果的。地域のNGOで活躍する人を招くことで、その存在が強く印象に残り、地域に目を向け、身近なボランティアについて考えることができた。
- 仕事の時間でも自分の時間でもない時間（公の時間＝ボランティア）の存在に気づかせることができた。

課題

- 参加型の授業形式で実施することにより、短時間で無理なく思いを行動へとつなぐことができる。そのためには、ゲストとのねらいの共有が重要。効率よく思いを伝えてもらうためにも、どこに焦点を絞り、わかりやすく、より簡潔に話してもらうかについて事前に打合せが必要！

学習プログラム案完成!

「三保谷の学び」 ～ボランティアにおける自主性～



対象 小学校高学年

時間数 30～45分


ねらい

・地域で生き生きと活躍している人の生活を通し、自分のボランティア体験をふり返り、ボランティアにおける自主性について気づくことができる。

進め方



準備物 カルタ(5枚×2×グループ数+予備:人数分のセット)、円グラフ、写真①②(P.25に掲載)、ふりかえりカード(P.25に掲載)(B6版1枚×人数分)、付箋、筆記用具

内容	時間(分)	進行上のポイント
<p>1 アイスブレイキング</p> <p>(1) ゲストの紹介</p> <p>(2) カルタ取り カルタの内容(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 奉仕作業の時間にごみ拾いをした。 ④ 親子奉仕作業で草むしりをした。 ⑤ 委員会活動で、老人ホームを掃除した。 ⑥ 先生に言われて、体の不自由な方に手紙を書いた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>⑦ 家の人に言われて、地域や子供会の廃品回収に参加した。</p> </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ分けは事前に行っておく。2の推理ゲームでゲスト情報がキーとなるため、名前程度の紹介にとどめる。 ○カルタを読み上げる。カルタの内容に当てはまる人だけが机上のカルタを取る。 ○緊張をほぐすとともに、互いの多様性に気づくことができるように配慮する。 ○自分のボランティア活動をふり返ることができるように、カルタ終了後、取れなかった人にもカルタを渡す。 ○カルタの内容は、地域や学校の実態に応じて作成するとより効果的になる。
<p>2 推理ゲーム「どんな人かな？」</p> <p>推理中…</p> 	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストがどんな人か推理できるよう、円グラフや写真を提示し「楽しい」をキーワードに、テンポよくインタビューする。仕事の時間でも、自分の時間でもない・公の時間(ボランティア)という概念でゲストの生活時間を考えさせる。 ○身近に感じられるよう、ゲストは仕事着姿(頭にタオルを巻き作業服)で参加してもらう。
<p>3 気づき、ふり返る。</p> <p>(1) わたしにできること</p> <p>(2) ゲストからの感想</p> <p>(3) 活動をふり返る</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ○思いを行動につなげるため、カルタの上に付箋を貼り、楽しい(自主性を取り入れた)活動になるように自分なりに考えて書き加えさせる。 ○付箋の内容や活動の様子に対して簡単にゲストから感想をもらう。服装の種明かしをする。 ○ふりかえりカードに書いてもらう。45分を実施する際には、ここで時間(+15分)を調節し、記入後に感想や気づいたことについて全体で共有する。

ふりかえりカード

ふりかえりカード

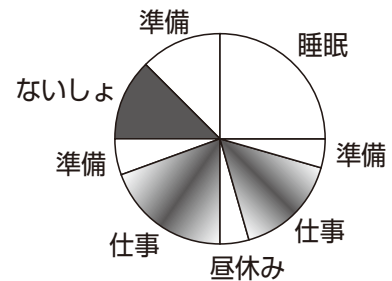
平成 年 月 日 ()
年 組 名前 ()

- 三保谷さんや友達の話聞いて、自分と同じ考えに気づいたことや新発見したことは何ですか？
- 今日の活動はどうでしたか？感想や三保谷さんへのメッセージをお願いします。

円グラフ

*ないしょ (ボランティアをしている時間)
仕事中に時々…
(ボランティアのことを考えている時間)

三保谷さんの一日



推理ゲームの原稿

*子どもたちは思い思いにつぶやき、ゲスト(今回は作業服にタオル姿の三保谷さん)がどんな人かインタビューを通して想像を広げる。

教師：「どんなことをしている人なのか考えて下さい。」

教師：「ヒント1」

ゲスト：円グラフを提示「僕は1日をこんな風に過ごしています。」

教師：円グラフの■に塗りつぶされた部分を強調するとともに、円グラフを黒板に掲示
「この時間(■の部分)はどんな時間ですか。」

ゲスト：「楽しいです。」

教師：■の部分楽しいというキーワードを板書する。

教師：「ヒント2」

ゲスト：写真①と②を順に提示

「この時間(■の部分)にこんなことをしています。」

写真①
(例：日本語教室)



教師：「○○さん(今回は三保谷さん)は、楽しい時間にどんなことをしているんですか？」

ゲスト：■の紙をはがす。

「ボランティアなんですよ。」

写真②
(例：地域交流活動)



*少し間を置いて。

教師：「みなさんのボランティアも楽しくするためには、どうしたらいいですか？」